



平成26年1月期 決算説明会

株式会社 ACCESS

平成26年3月13日

- **本資料に含まれる業績目標等の将来数値につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき弊社グループで判断したものです**
- **将来数値には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの将来数値と異なる場合がありますので、この将来数値に全面的に依拠して、投資等の判断を行なうことは差し控えてください**

- I. 平成26年1月期 決算概況
- II. 平成26年1月期 事業進捗総括
 - 1. 事業の進捗状況
 - 2. セグメント別事業状況
- III. 全体戦略及び第31期の取り組み
 - 1. 全体戦略
 - 2. ビジネスモデルの転換
 - 3. 第31期 注力事業ハイライト
 - 4. 第31期 業績・事業・組織方針
 - 5. 第31期 業績計画

Appendix

I. 平成26年1月期 決算概況

決算ハイライト

(平成26年1月期 / 期初予算・前期比)



(単位:百万円)

	当期実績 ①	予算比 ①-②	前期比 ①-③	期初予算 ②	前期実績 ③
売上高	10,922	▲877	▲789	11,800	11,712
営業利益	802	▲197	▲622	1,000	1,425
経常利益	932	▲67	▲742	1,000	1,675
当期純利益	193	▲706	▲2,406	900	2,600

○ 通期業績予想値と実績値との差異

- 海外子会社の売上後ろ倒し
- ネットワーク事業の主要顧客との取引縮小
- フロントエンド事業の伸び悩み
- 新規事業の創出遅延

○ 経営責任の明確化

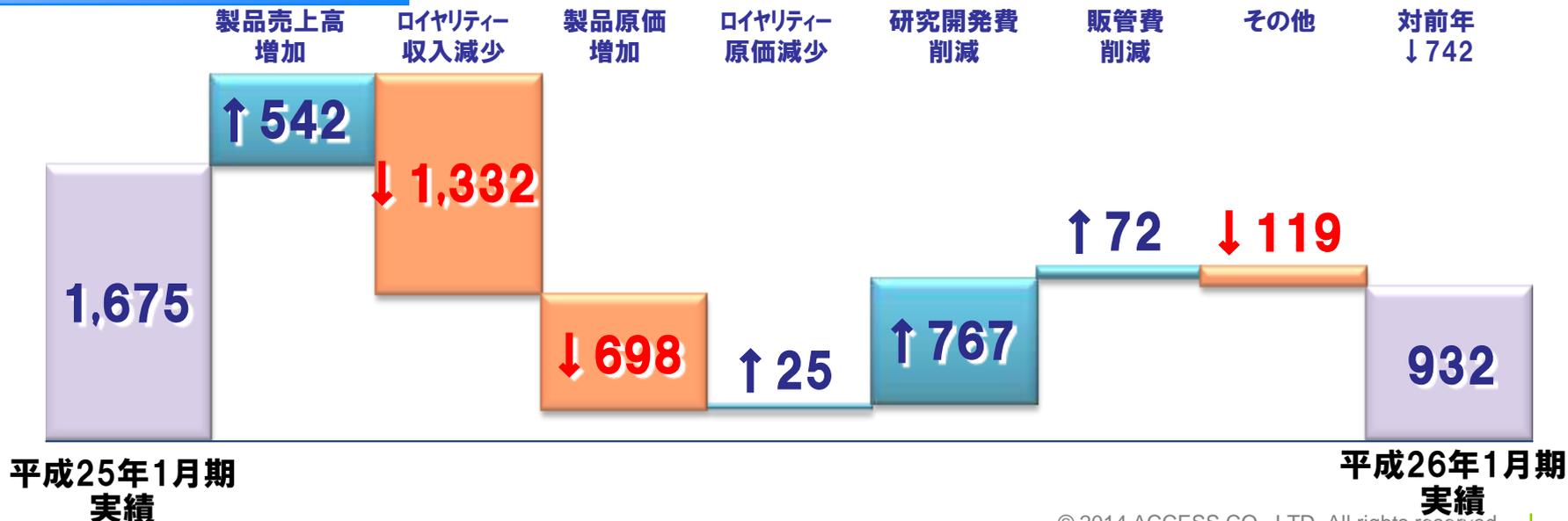
- 事業基盤の確立の遅れに対する経営責任の明確化の一環として、平成25年6月付与の役員向け株式報酬型ストックオプションを自主的に放棄

期初予算比較

(単位:百万円)



前年比較

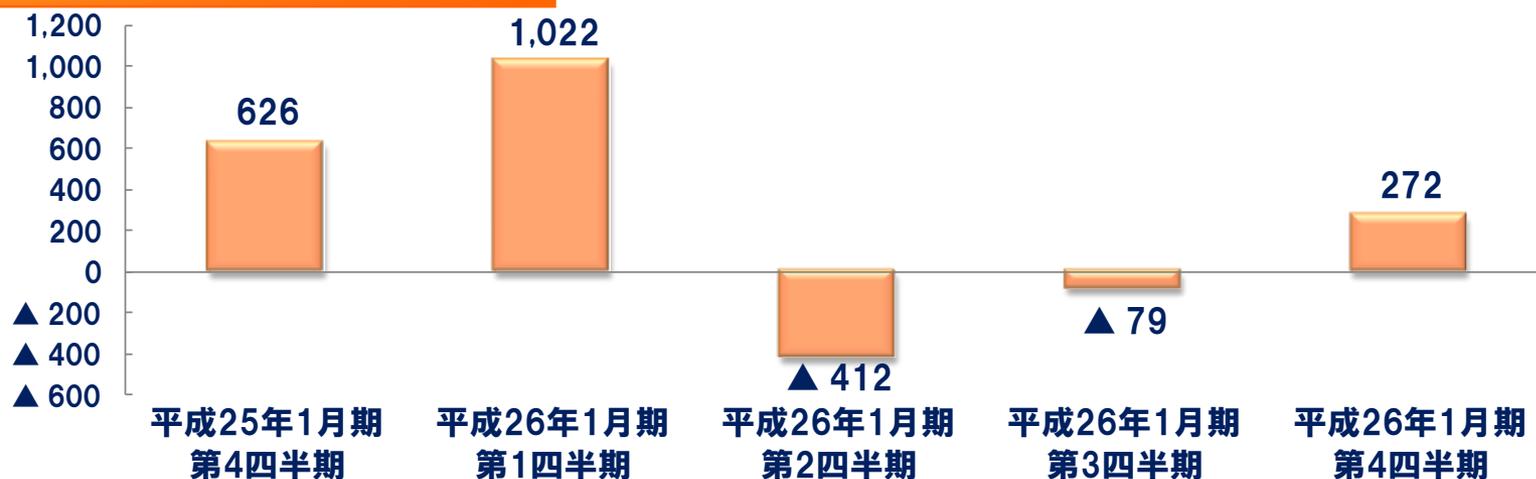


連結売上高推移

(単位:百万円)



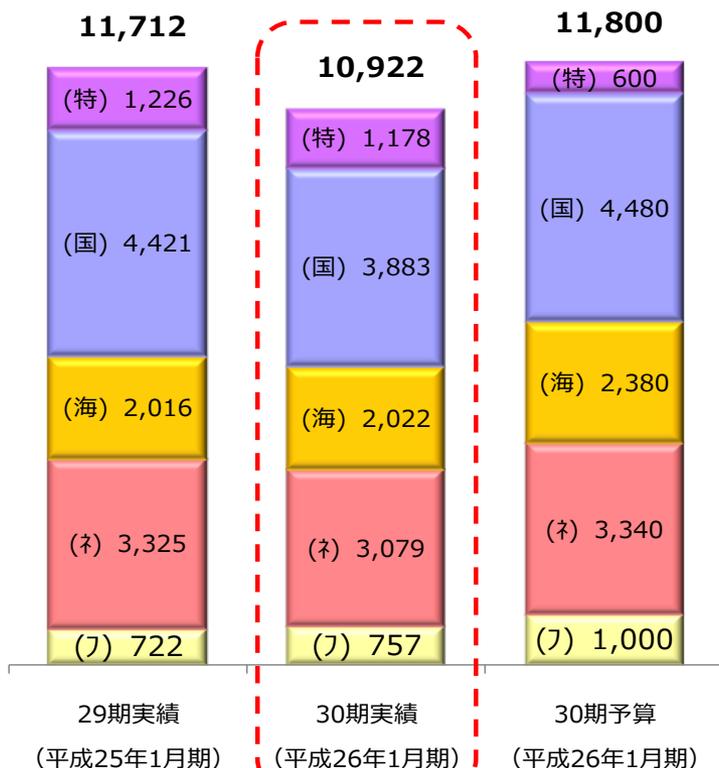
連結営業利益推移



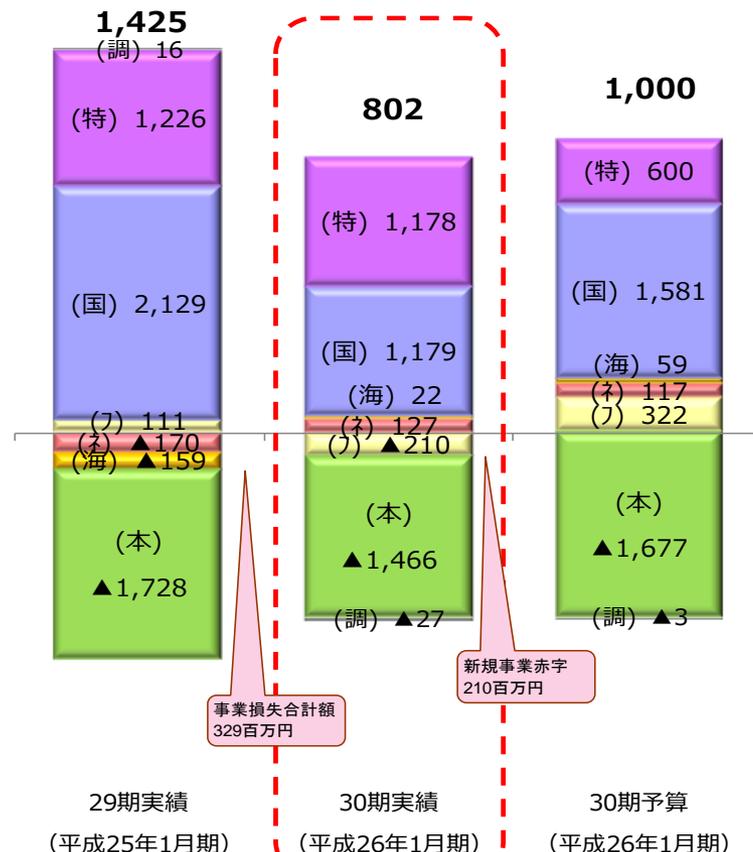
連結-売上高/本社費配賦前営業利益 (セグメント別)

(単位:百万円)

連結売上高



本社費配賦前営業利益



■ 特許
 ■ ソフトウェア事業(国内)
 ■ ソフトウェア事業(海外)
 ■ ネットワークソフト事業
 ■ フロントエンド事業
 ■ 本社費

第30期連結 売上高 10,922百万円 営業利益 802百万円

単体-業績サマリ

(平成26年1月期 / 期初予算・前期比)

(単位:百万円)

	当期実績 ①	予算比 ①-②	前期比 ①-③	期初予算 ②	前期実績 ③
売上高	6,026	▲308	▲410	6,334	6,436
営業利益	682	▲225	▲992	908	1,675
経常利益	1,282	383	▲520	899	1,803
当期純利益	▲6,781	▲7,599	▲8,392	818	1,611

○ 期初予算と実績値との差異

- フロントエンド事業の伸び悩み / 新規事業の創出遅延
- 子会社からの配当金による営業外収益
- 子会社IP Infusionの株式に係る関係会社株式評価損
(7,479百万円:現金支出を伴わない会計上の処理)

※ 連結決算には
影響しない

○ 株式取得後の事業状況

- 平成19年1月期に株式取得し子会社化
- 売上高は順調に成長していたものの、営業・開発の先行投資により継続的に赤字を計上

○ 評価損計上の背景

- マネジメントの強化や開発拠点のインド移管等、抜本的なコスト構造見直しを実施
⇒ **平成26年1月期はIPIネットワークソフト事業の黒字化を実現**
- 主力製品である「ZebOS®」の主要顧客との取引縮小により売上高が減少
⇒ **IPI単体ののれん減損処理とともに、当社単体決算で関係会社株式評価損を計上
(但し、連結財務諸表上はのれんを償却済みであり、連結業績には影響しない)**

○ 今後の事業方針

- 次世代ネットワーク仮想化技術(SDN)やネットワーク機能仮想化技術(NFV)を開発・市場投入し再成長軌道へ
- ZebOSで蓄積した技術・ノウハウを活用して研究開発コストを抑制し、黒字路線を維持

(ご参考) 直近3カ年 IPI ネットワークソフト事業業績

(単位: 千ドル)

	2011年12月期	2012年12月期	2013年12月期
売上高	31,127	38,303	28,588
営業利益	▲10,858	▲1,711	678

黒字化実現

配当方針

- 株主に対する利益還元が重要な経営課題
- 内部留保の充実等に留意しつつ、経営成績を総合的に勘案
- 安定的な利益還元を行うこと

第30期配当見送り

- 単体業績が大幅の純損失となり、繰越利益剰余金が欠損の状況
- 安定的な利益還元の前提となる継続的な事業成長へ向けた事業基盤の確立に
なお暫くの時間を要する状況
- 事業状況及びリスク等を総合的に勘案し、配当見送り

II. 平成26年1月期 事業進捗総括

II-1. 事業の進捗状況

平成26年1月期				平成27年1月期 取り組み課題	
第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期		
業績	黒字化達成	上期業績 計画通り進捗	四半期赤字	<ul style="list-style-type: none"> ・再成長へ向けた事業基盤の確立 ・既存事業の収益性維持 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・「第3のOS」 ・エンタープライズ向け開発加速 	3Fソリューションの具体化 -デジタルサイネージサービス開始 -SDNソリューション拡大 -DLNAソリューション	新規ソリューション 製品化・拡販		<ul style="list-style-type: none"> ・新規事業開拓加速 ・事業管理の徹底
	エンタープライズ向け組織設置	グローバルでの営業・開発の連携強化	マーケティング戦略 専門組織設置		
事業			新製品/サービス 開発一部遅延		
組織			研究開発 専門組織設置		

第30期は収益構造の転換に向けた足場固め

II-2. セグメント別事業状況

- ソフトウェア事業（国内） -

第30期業績

(単位:百万円)

	当期実績 ①	予算比 ①-②	前期比 ①-③	期初予算 ②	前期実績 ③
売上高 ^{※1}	5,062	▲17	▲586	5,080	5,648
貢献利益 ^{※2}	2,358	177	▲997	2,181	3,356
社員数	117	-	▲25	-	142

※1 外部顧客への売上高 ※2 全社費配賦前利益

業績のポイント

- 粗利率の低下
ロイヤリティ収入から製品売上高に
セールスマックスが変化
- 特許ライセンス収入計上

事業ハイライト

- クラウドサービス展開本格化
 - ✓ (株)アイネットと業務提携
 - ✓ BaaSソリューション提供開始
- スマートセンサー事業拡大
 - ✓ 「Fullmiere[®]」拡販
 - ✓ Beaconソリューション提供開始

II-2. セグメント別事業状況

- ソフトウェア事業（海外） -

第30期業績

(単位:百万円)

	当期実績 ①	予算比 ①-②	前期比 ①-③	期初予算 ②	前期実績 ③
売上高 ^{※1}	2,022	▲357	6	2,380	2,016
貢献利益 ^{※2}	22	▲36	182	59	▲159
社員数	164	-	▲14	-	178

※1 外部顧客への売上高 ※2 全社費配賦前利益

業績のポイント

- **事業運営の効率化**
コスト構造の抜本的な見直し
- **一部案件の売上後ろ倒し**
主に欧州での案件後ろ倒しが
予算未達に影響

事業ハイライト

- **マルチスクリーンソリューション展開**
 - ✓ 米Comcastからライセンス供与を受け、次世代家電連携ソリューション開発加速
 - ✓ NetFront® Browser NX / NetFront® Living Connect 拡販

II-2. セグメント別事業状況

- ネットワークソフト事業 -

第30期業績

(単位:百万円)

	当期実績 ①	予算比 ①-②	前期比 ①-③	期初予算 ②	前期実績 ③
売上高 ^{※1}	3,079	▲260	▲245	3,340	3,325
貢献利益 ^{※2}	127	10	297	117	▲170
社員数	230	-	14	-	216

※1 外部顧客への売上高 ※2 全社費配賦前利益

業績のポイント

- **事業運営の効率化**
サポート・メンテナンス業務の
インド移管完了
- **IP Infusion株式評価損の計上**
単体業績に特別損失計上

事業ハイライト

- 「ZebOS[®]-XP」提供開始
- **SDNソリューション開発**
 - ✓ 次世代ネットワークスイッチ製品
「AEROZ[™]」開発・拡販
 - ✓ オフィスネットワーク向けSDNソリューション
「OmniSphere」提供開始

II-2. セグメント別事業状況

- フロントエンド事業 -

第30期業績

(単位:百万円)

	当期実績 ①	予算比 ①-②	前期比 ①-③	期初予算 ②	前期実績 ③
売上高 ^{※1}	757	▲242	34	1,000	722
貢献利益 ^{※2}	▲210	▲532	▲322	322	111
社員数	66	-	28	-	38

※1 外部顧客への売上高 ※2 全社費配賦前利益

業績のポイント

- **新規ソリューション開発に注力**
事業拡大へ向け先行投資
- **事業拡大に一部遅延**
電子書籍関連ソリューションの顧客開拓が当初想定より後ろ倒し

事業ハイライト

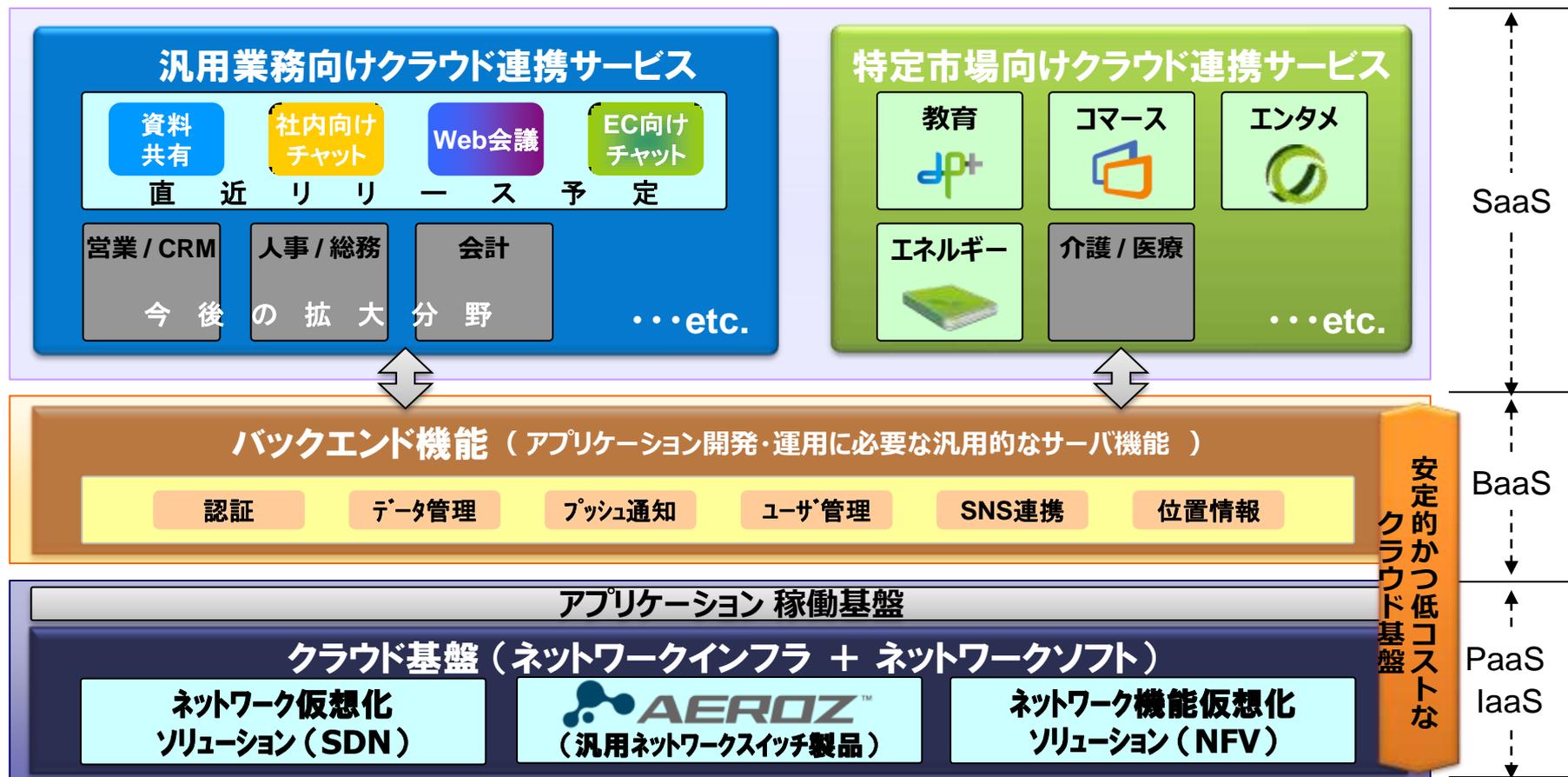
- **電子出版ソリューション展開**
✓ 「PUBLUS™」シリーズを開発し、出版・教育向けに拡販
(採用実績)
(株)東芝、(株)集英社、
(株)ブックウォーカー(角川グループ)、
(株)ベネッセコーポレーション 他

III. 全体戦略及び第31期の取り組み

III-1. 全体戦略

- 当社事業の将来像 -

インフラ・ネットワーク・サービスまでを一貫提供する
真のクラウドサービス事業者を目指す



III-2. ビジネスモデルの転換

- ストック型ビジネスモデルの新規事業開発 -

既存事業で培った強みを活かし、
ストック型ビジネスモデルの新規事業開発を加速

既存事業
(受託/ライセンスモデル)

ACCESSの
強み

新規事業
(ストック型ビジネスモデル (月額課金モデル))

ブラウザ技術
組み込み技術



開発技術力
(統合力)

加算力
(企画提案力)

出版・教育



コマース+センサー



企業向け業務支援



ネットワーク事業
(IP Infusion)



次世代
ネットワーク技術
(仮想化技術)

dp+ 電子出版
publus

電子
教科書

ABF Beacon
センサー

サインージ
SIGNESS

スポーツ
センサー
Fullniere

資料共有

Web会議

社内向けチャット

EC向けチャット

クラウド基盤

ACCESS Cloud Platform

III-3. 第31期 注力事業ハイライト

- クラウド連携サービス分野 -

相互に連携可能な複数の企業向けサービスを迅速に市場投入

資料共有



『便利』『安全』『快適』な
ドキュメント一括管理・閲覧ツール

社内向けチャット



Web会議やドキュメント共有機能と連携した
業務用チャットシステム

Web会議



『柔軟』『安全』『安価』な
企業向けWeb会議システム

EC向けチャット



電話・メールに続く、ブラウザ上での
第3のカスタマーサポートツール

III-3. 第31期 注力事業ハイライト

- 次世代ネットワークソリューション分野 -

「ZebOS®」で培った技術・ノウハウを活用して次世代ネットワーク技術分野の開発を加速

ネットワーク仮想化領域の拡大

仮想化の進展

既存の物理ネットワーク

- サービス毎に専用のハードウェア / ネットワークを運用

ソフトウェアで定義されるネットワーク網(SDN)

- 専用の物理ネットワークから仮想ネットワークへの転換
- 汎用ハードウェアで運用

ネットワーク機能の仮想化(NFV)

- ネットワークサービスの構築・運用を自動化
- 汎用ハードウェアで運用

当社ソリューション



ZebOS®

- 多数の世界的な大手通信機器ベンダーからの採用実績



- 「ZebOS®」を標準実装した汎用スイッチ製品
- 高いコスト競争力
- SDNに対応

NFVソリューション

- ネットワークサービスの柔軟化
- 汎用ハードウェアの活用による設備投資 / 運用コスト削減

業績

- 既存事業の収益性を維持しつつ、新規事業の早期確立に取り組むことにより、継続的な事業成長へ向けた事業基盤確立を目指す

事業

- 既存事業：モバイル向け・情報家電向け案件を維持
- 新規事業：「企業向けクラウド連携サービス」「次世代ネットワークソリューション」に注力
- 事業管理の徹底実行（新規事業の積極推進に伴う適時・適切な事業性判断/リスク管理）

組織

- 事業運営を下支えする当社グループの総合力強化
 - 人材育成（スキル / リーダシップ / マインドチェンジ）
 - 組織力強化（営業・開発・マーケティング部門の一層の連携強化）
 - 企業風土の醸成（顧客意識 / ベンチャー精神）

III-5. 第31期 業績計画

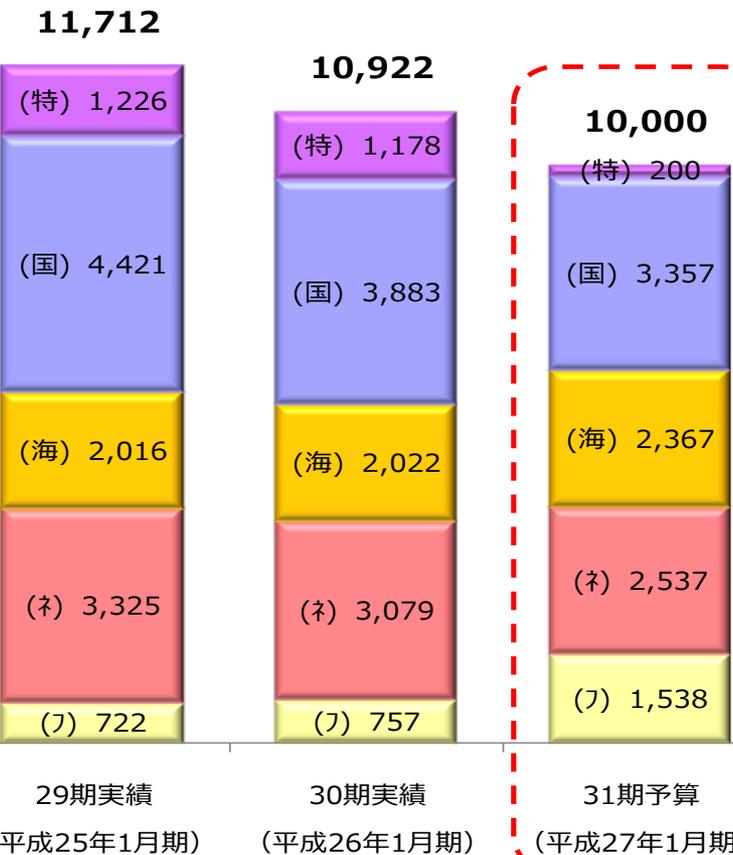
(単位:百万円、%)

	第31期 予算 ①	第30期 実績 ②	増減額 ①-②	増減率 (%)
売上高	10,000	10,922	▲922	-8.4%
営業利益	300	802	▲502	-62.6%
経常利益	300	932	▲632	-67.8%
当期純利益	200	193	6	3.2%
一株当たり 当期純利益(円)	5.19	5.03	-	-

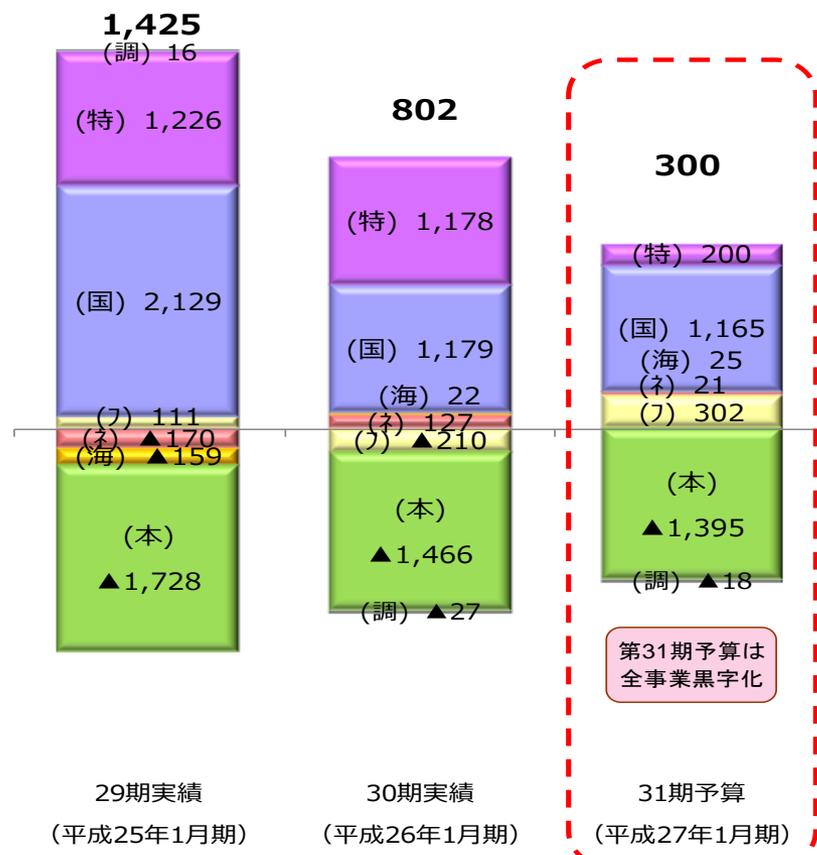
III-5. 第31期 業績計画 (セグメント別)

(単位:百万円)

連結売上高



営業利益(本社費配賦前)



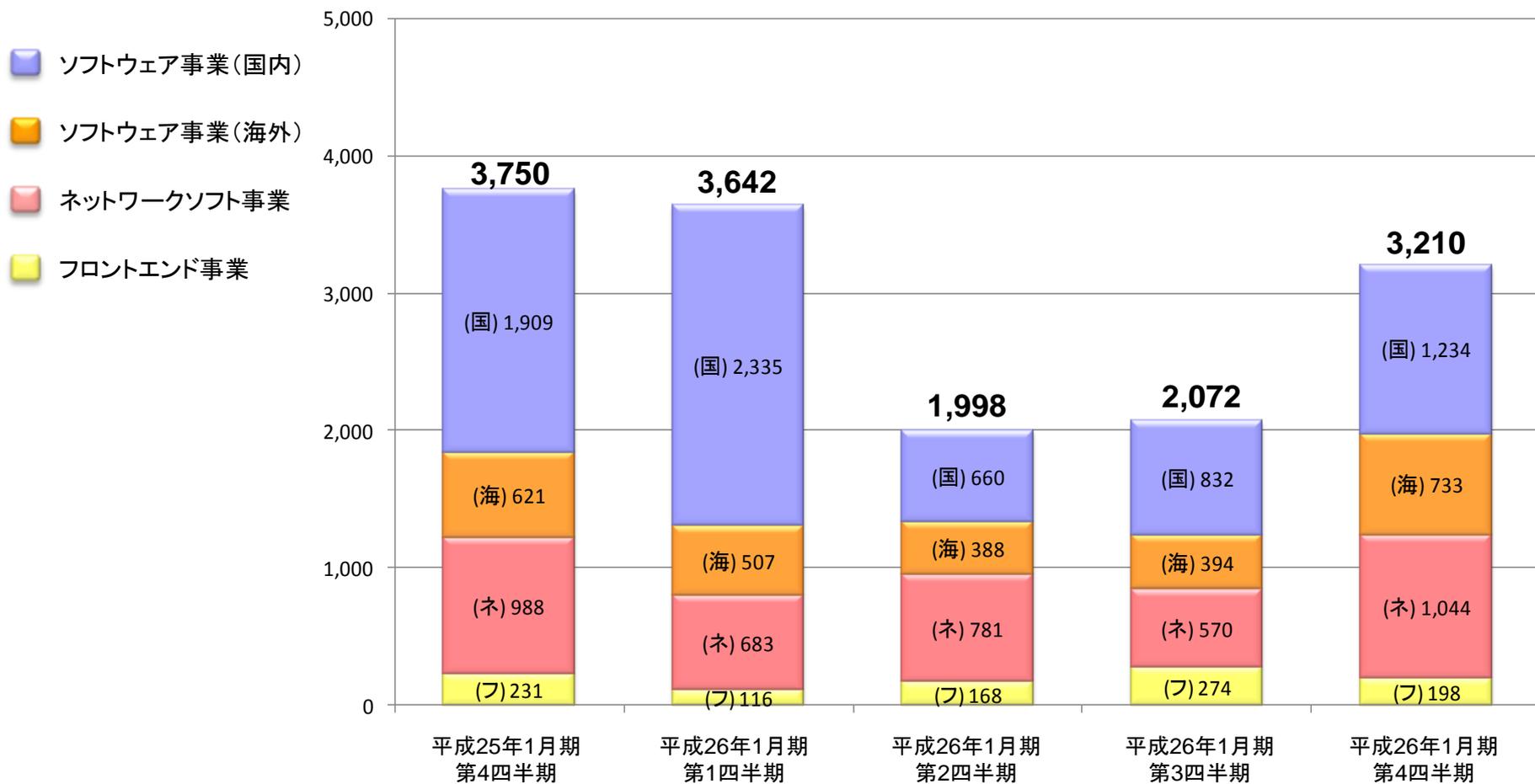
■ 特許
 ■ ソフトウェア事業(国内)
 ■ ソフトウェア事業(海外)
 ■ ネットワークソフト事業
 ■ フロントエンド事業
 ■ 本社費

Appendix

1. セグメント別売上高の推移（連結）
2. セグメント別営業利益の推移（連結）
3. 特別利益・特別損失の明細
4. 受託開発(製品)の受注状況（連結）
5. 貸借対照表（要約）
6. 連結キャッシュ・フローの状況（要約）
7. 人員の推移（連結）
8. 平成26年1月期第4四半期 開示一覧

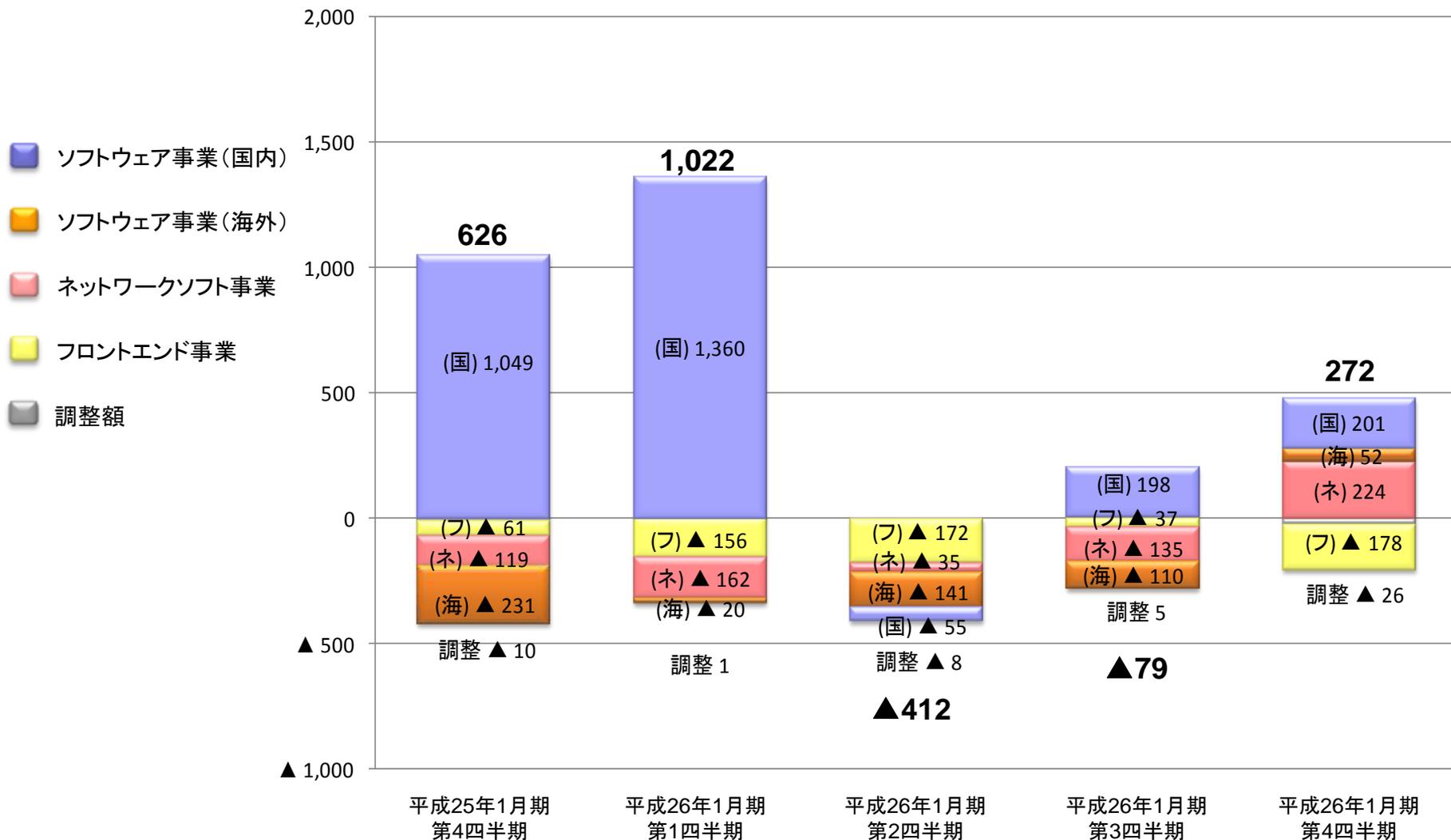
セグメント別売上高の推移（連結）

（単位：百万円）



セグメント別営業利益の推移（連結）

（単位：百万円）



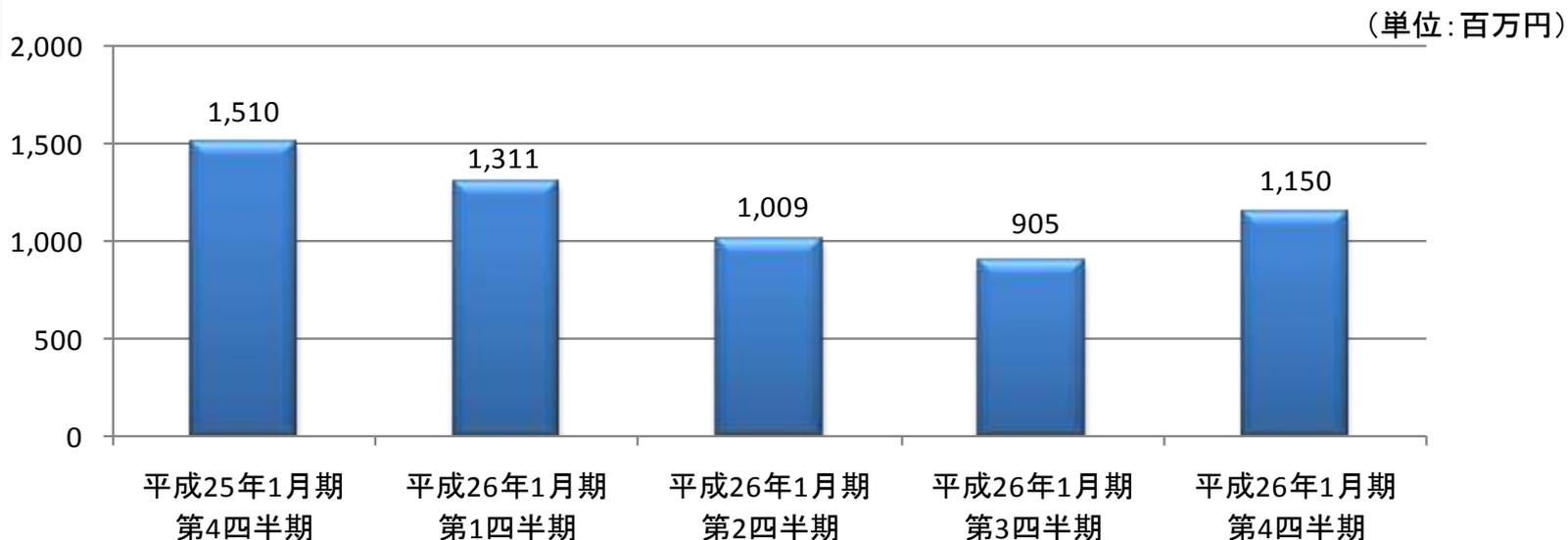
特別利益・特別損失の明細

(単位:百万円)

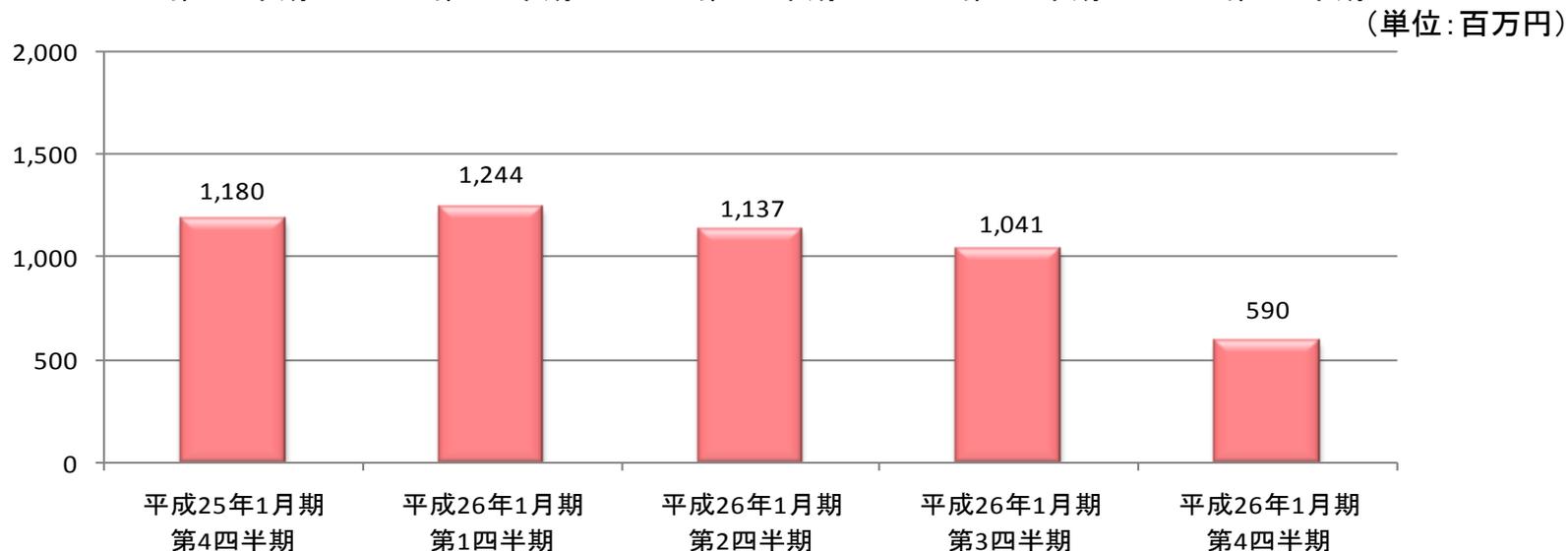
	科目名	ACCESS (本社)	子会社	修正	連結合計
特別利益	新株予約権戻入益	5	45	-	51
	その他	0	0	-	0
	合計	6	45	-	51
特別損失	特別退職金	0	142	-	142
	減損損失	-	19	-	19
	関係会社株式及び出資金評価損	7,566	0	▲ 7,566	-
	その他	-	0	-	0
	合計	7,566	163	▲ 7,566	162

受託開発（製品）の受注状況（連結）

受注高



受注残高



貸借対照表（要約）

連結BS資産
(単位:百万円)

連結BS負債・純資産
(単位:百万円)

株価時価総額・純資産対比表
(単位:百万円)



連結キャッシュ・フローの状況（要約）

(単位：百万円)

平成26年1月期
通期

平成25年1月期
通期

	平成26年1月期 通期	平成25年1月期 通期
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	825	1,783
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲267	▲165
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲0	▲2,182
IV. 現金及び現金同等物増加/減少	1,129	▲166
V. 現金及び現金同等物期首残高	22,176	22,342
VI. 現金及び現金同等物期末残高	23,306	22,176

税金等調整前当期純利益： 821 百万円
減価償却費： 380 百万円
売上債権の増加： ▲432 百万円

定期預金の預入による支出： ▲1,101 百万円
定期預金の払戻による収入： 1,127 百万円
投資有価証券の取得による支出： ▲130 百万円
関係会社株式の取得による支出： ▲70 百万円

税金等調整前当期純利益： 2,486 百万円
売上債権の減少： 1,859 百万円
関係会社株式売却益： ▲1,211 百万円
特別退職金等支払額： ▲1,051 百万円

定期預金の預入による支出： ▲622 百万円
定期預金の払戻による収入： 245 百万円
有価証券の売却による収入： 520 百万円
投資有価証券の取得による支出： ▲100 百万円
関係会社株式の取得による支出： ▲100 百万円

長期借入金の返済額： ▲1,786 百万円
自己株式取得による支出： ▲395 百万円

人員の推移（連結）

(単位:人)		平成25年1月期		平成26年1月期			
		第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
	日本	141	142	125	123	125	117
ソフトウェア事業(国内)		141	142	125	123	125	117
	日本	-	-	-	-	-	-
	アジア(日本以外)	138	128	128	130	126	126
	北米	10	10	8	3	2	2
	ヨーロッパ	40	40	41	35	37	36
ソフトウェア事業(海外)		188	178	177	168	165	164
	日本	8	8	6	5	4	4
	アジア(日本以外)	140	150	192	191	191	196
	北米	52	52	53	44	35	30
	ヨーロッパ	7	6	6	6	2	-
ネットワークソフト事業		207	216	257	246	232	230
	日本	38	38	58	58	59	66
フロントエンド事業		38	38	58	58	59	66
	日本	36	41	35	34	32	34
本社管理部門		36	41	35	34	32	34
合計		610	615	652	629	613	611

※全て各四半期末時点における人員数

平成26年1月期 第4四半期 開示一覧 ①



		適時開示	報道発表
第4四半期	11月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主要株主の異動に関するお知らせ (11月11日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ACCESS、ゴルフのパッティングを3D解析・表示する新製品「Fullmiere®パター」を発表
	12月		<ul style="list-style-type: none"> ■ ベネッセの小中学生・ティーンズ向け読書サービス「ブックフレ」にACCESSの電子出版ソリューション「PUBLUS™」が採用
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 執行役員の選任に関するお知らせ (1月31日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ACCESS、電子出版プラットフォーム「PUBLUS™」に動画ストリーム配信機能を拡張 ■ 「i文庫 for Android」リリース3周年を記念して、450円に大幅割引！ さらに、1月20日から2週間限定で、100円で提供！！ ■ ACCESS、Beaconソリューション「ACCESS™ Beacon Framework」を発表 評価キットを、2月20日より提供開始

平成26年1月期 第4四半期 開示一覧 ②

		適時開示	報道発表
(ご参考) 第31期 第1四半期	2月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主要株主である筆頭株主の異動に関するお知らせ (2月5日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ACCESS、教材向け電子書籍ビューワ「PUBLUS® Reader for Education」を開発 東京書籍の「特別支援を必要とする学習者に配慮した電子教材用ビューワ」として採用 ■ 本格的なスマートフォン向けデコレーションメール「CosmoSia®」が、So-netのメールサービスに採用 ■ ACCESSのBeaconソリューション「ACCESS™ Beacon Framework」が、Google Glass™に対応
	3月	<ul style="list-style-type: none"> ■ 平成26年1月期通期連結業績予想値と実績値との差異、個別決算における前事業年度の実績値との差異、及び特別損失計上に関するお知らせ (3月13日付) ■ 剰余金の配当(見送り)に関するお知らせ (3月13日付) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ACCESS、「TV Connect」において、コンテンツ配信とマルチスクリーン向けの最新ソリューションを展示 ■ ACCESS、自社開発のiBeaconライブラリをオープン化し、提供開始